

9月14日 GoogleのモバイルOSである android タブレット比較は、現在1日50万台のペースでアクティベートされている。アンディ?ルービンは、そのAndroidの開発を中心として、Googleの技術部門担当副社長を務めている人物だ。彼はもともとAppleでも勤務したことがあるエンジニアで、Danger社というスマートフォン開発ベンチャー(Sidekickというスマートフォンで有名)を興したことで知られているが、やはり彼の名前を世界に広めたのは、Danger社がMicrosoftに買収された際に創業したモバイルOS 開発ベンチャーの android ケータイ社が、Googleに買収されたことだろう。その結果「無償で世界中の携帯電話メーカーに提供するモバイルOS」というコンセプトで再開発されたAndroidは、名実ともに世界でもっとも普及したモバイルOSとなった。彼はカメラの高性能レンズで知られる光学機器メーカー、Carl Zeissを経て、1989年にAppleへ入社している。その翌年、Appleの子会社だったGeneral Magicに出向し、そのときにモバイルデバイスのOSやUI設計に携わったとされている。現在GoogleはAppleにモバイルOSの特許がらみでの訴訟問題に悩まされているが、その一端はルービンのこのキャリアにあるといわれている。General Magic所属時に得たアイデアを盗用している、というのだろう。それはともかく、ルービンは2003年10月Android社を設立したのちに、先述のごとくGoogleによって買収され、世界的なAndroidの人気を受けて、経営幹部に抜擢されている。AndroidがスマートフォンのOSとして世界中の携帯電話メーカーに採用されるまでには相当の紆余曲折があり、iOSを脅かす存在へと成り上がることができたのはひとえにルービンの熱意の賜物だ。Android発表当時は、スマートフォンのOSはWindowsやRIM(Blackberry)全盛であり、多くの携帯電話メーカーから冷ややかな対応を受けていたものだ。iTunes Storeを世界中の音楽レーベルと根気よく交渉して認めさせてきたスティーブ?ジョブズに似て、のちに偉大な成功と称される素晴らしいテクノロジーやアイデアが、粘り強い個人技によって支えられていることが多いということを再認識させられる。